

平成27年度学校自己評価システムシート (県立岩槻高等学校)

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	1 一人一人を生かす学びの定着 (学力の向上を目指して) 2 進路指導の充実 (夢の実現を目指して) 3 生徒指導の充実と人権教育の推進 (豊かな心の育成を目指して) 4 国際理解教育の推進 (国際社会で活躍する生徒の育成を目指して) 5 保護者・地域との連携 (信頼される学校を目指して)
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 2 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒は、朝学習に真面目に取り組んではいるが、家庭学習時間が不十分という者も多く、主体的に学習する姿勢は不十分である。家庭学習を充実させ、主体的に学習する態度を身につけさせることが重要である。	主体的に学習する生徒を育成する。	①スタディサポートや学習リサーチの結果を、生徒理解や学習指導などで生徒の個別指導に生かす。 ②課題考査を継続し、朝学習を充実させる。 ③公開授業を3回以上実施する。また、年間を通して教員相互による授業公開を実施する。 ④5教科において、授業の指導内容、到達目標を明文化する。	①成績不振生徒が前年比減少及び優良生徒が前年比増加したか。 ②生徒が年間を通して朝学習に参加できたか。 ③公開授業や教員相互による授業公開が予定どおり実施できたか。 ④明文化し、共通理解が図れているか。	①成績優良生徒(前年比) 1年 33→49 2年 47→45 3年 55→50 成績不振生徒(前年比) 1年 30→16 2年 33→26 3年 11→13 ③授業公開は3回実施した。また、年間を通して教員相互による授業公開を実施し、授業改善の参考にした。 ④授業の指導内容、到達目標も明文化し、共通理解を図った。	A	○スタディサポートの結果や生徒による授業評価をもとに授業改善に取り組んでいるが、家庭学習が習慣づいていない生徒も多いことから、まだまだ改善に努める必要がある。 ○教員間の授業公開について強化週間や月間を設定する、明文化した指導内容、到達目標について研修会を通して共通理解を図るなどし、授業改善を一層充実させたい。
2	高校3年間を見通した指導により生徒が進路設計することの大切さを理解させているが、より難易度の高い大学等に挑戦せず、安易な進路選択をする生徒もいる。	生徒が、より良い進路を自ら選択ができるよう、キャリア教育の視点に立った進路指導を充実させる。	①1年次からの職業調べ、学部学科の研究を計画的に実施することにより充実させる。 ②面談を通して進路意識の向上を図る。また、進路講演会、模擬授業等を通して進路意識の向上を図る。 ③スケジュールリング指導や進路ガイダンスを実施する。	①1学年次からの進路行事を適切な時期に実施できたか。 ②進路意識の向上が図れたか。 ③進学講習や学習道場への参加者、模擬試験受験者、センター試験受験者は増えたか。	①図書館は、小論文指導の題材になる図書の実践に努めた。 ①②行事の実施後に担任が面談をしてきたことにより、生徒の進路意識は向上した。特に2年生は具体的な将来計画を立てられるようになった。 ③センター試験受験者 78→91 進学講習受講者 310	A	○進路意識の向上に向け、一定の成果をあげることができた。来年度に向けて、この流れを大事にしていきたい。また、新1・2年生についても取組みを継続させたい。 ○図書館とも連携しながら、担任が進路指導しやすいよう、適切な資料提供をしていきたい。
3	生徒指導部が中心となり、全学年統一した指導ができており、遅刻・欠席者は少ないが、遅刻を繰り返す者もいる。また、多様な経験を持つ生徒に関係分掌・学年等が連携して対応できる体制が必要である。	整容指導、挨拶の励行、時間を守る指導をより一層充実させる。	①全教職員が共通認識のもと整容指導等を行う。 ②登校指導、下校指導を継続的に行う。 ③企画委員会を指導の必要な生徒に関する情報共有の場として活用する。 ④人権教育講演会と職員研修会を実施する。	①学年間で指導についての調整が図れているか。 ②遅刻者数、欠席者数が前年と比べて減ったか。 ③情報の共有ができ、支援の必要な生徒に分掌等が連携して指導できたか。 ④計画どおり実施できたか。	①整容指導については、教員間で概ね共通理解が図れている。 ②欠席者数(2学期現在) 1099→1528 遅刻者数 886→974 ③企画委員会では、情報交換ができています。	B	○生徒が抱える問題も様々であり、教員間の生徒指導に関する認識のズレが、指導の差につながる。統一した指導ができるよう、今後も共通理解を図っていく必要がある。 ○企画委員会や生徒指導だけでなく、教育相談委員会などの活用も必要である。
4	今年度は海外授業体験学習への参加者を確保でき、体験学習を実施することになった。今後、国際理解教育についてより充実発展させるためには、国際文化科内に留まらず学年単位、さらには全校で取り組む必要がある。	国際文化科・各学年間での連携を強化するとともに、普通科への国際理解教育について発信する。	①国際文化科の学科行事であるイングリッシュサマーキャンプ、異文化セミナー、歌舞伎講座などの運営を支援する。 ②1・2学年において、国際理解教育を学年行事として位置づける。	①国際文化科と国際交流部で国際理解教育について検討したか。 ②国際文化科だけでなく、普通科にどれだけ国際理解教育の取組みを拡大できたか。	①海外授業体験学習報告会の実施、英語・日本語スピーチコンテストや海外研修・派遣事業への参加に取り組んだ。 ②1・2学年において、学年行事として「国際理解教育」を実施した。	A	○年間を通して目標に一貫性を持たせた「国際理解教育」を実施していきたい。 ○一層充実した講演会となるよう、異文化理解セミナーの講師依頼、講演内容を検討していきたい。
5	行事を中心に多くの保護者が来校している。また、地域の行事にも積極的に参加し、地域からの本校の評価も高い。今後は、さらなる学校外への情報発信、地域との連携を通して、期待により一層広げていく必要がある。	H Pや学校通信等を活用した情報発信や地域行事への参加等を通して生徒や本校の姿を見せていく。	①H Pを定期的に更新する。 ②近隣の中学校等に積極的に向いて情報提供をする。 ③生徒が地域の行事、ボランティア活動、小高交流事業等に参加する。	①定期的な更新ができたか。 ②訪問内容について工夫ができたか。 ③昨年に比べ、参加者数が増えたか。	①H P更新回数 170回 ②「岩高通信」を6回発行し、近隣の小中学校へ配布した。 ③岩槻祭り等にも参加した。 小高交流事業参加者 87→94	A	○更新回数は、担当者によってバラツキがある。また、マンネリ化しないよう、内容等を工夫していかなければならない。 ○Net Commons 操作法についての講習会をできるだけ早い時期に行う必要がある。

実施日	平成28年1月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○1・2年生は、前年と比べ成績優良生徒が増え、不振生徒が減少している。とても良いことである。 ○授業公開は、教員の指導力を高める上で有効である。 ○朝学習は、1回あたりの時間は少ないが、1年間では相当な時間になる。積み重ねが大事である。 ○表現力などを身につけるために、読む力をつけさせることが必要である。朝学習の中に取り入れるなど、工夫してはどうか。
	○図書館が、進路に関する情報を提供するなど、分掌間でそれぞれ特長を生かした連携をすると、指導の効果がより上がる。 ○1年生の時から進路行事に取り組むのは、早い時期から将来のことを考えさせる機会になるのでとてもよい。 ○進路行事の後に、先生が面談をしてくれるのは、進路意識を定着させるのにより取組である。
	○生徒は落ち着いた学校生活を送っている。先生方の取組のおかげである。 ○遅刻している生徒をほとんど見かけない。遅刻・欠席が増えているのは意外である。特定の生徒が遅刻・欠席を繰り返しているのだろう。学年単位でも、協力して防止に取り組むことが必要である。
	○外国に目を向けることの効果は時間をかけないと現れてこない。継続が必要である。 ○現在の国際情勢を踏まえ、危険のないよう取り組んでほしい。 ○国際化に伴い、生徒一人一人が主体的に考え行動できる姿勢を育てることも大切である。
	○地域の行事に生徒が参加してくれるのは非常にありがたい。高校生が楽しく参加できるよう工夫をしていきたい。また、準備等の段階からや運営等にも参加できるようにしていきたい。